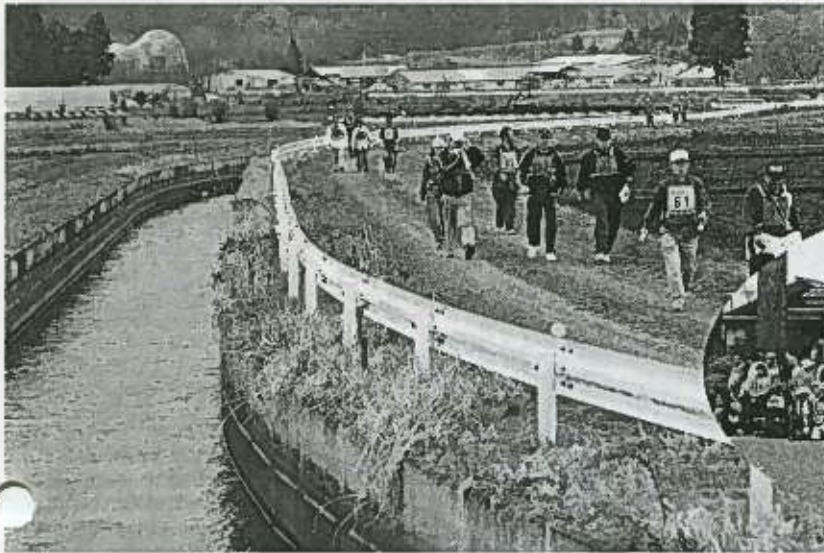


十和田市立 新渡戸記念館だより



◀太素祭の一大イベント・稲生川の流路に沿って歩く太素ウォーク。稲生川のほりは最適のハイキングコースです。今年は22キロと14キロの2コースがありました。【撮影：写真家 和田光弘氏】



当館前での記念撮影

平成16年 太素祭 —5月3日~5日—

稲生川上水146年を記念する春まつり太素祭（市観光協会・十和田市・十和田商工会議所・太素顕彰会／共催）が太素塚境内を中心に5月3日から5日まで行われ、あいにくの天気にもかかわらず3日間で約30,000人の人出がありました。当記念館ではクイズ大会を行い入館者数は約3,500人となりました。

様々なイベントで にぎわった太素祭

太素塚の特設ステージでは、三本木高校、十和田中学校の吹奏楽部、十和田水神雷太鼓の演奏や、カラオケ大会、子供たちに人気のキャラクターショーなどが行なわれ、多くの人で賑わいました。また、稲生川の流路に沿って歩く「水土里の路（みどりのみち）ウォーキング・太素ウォーク～桜、青嵐、開拓の大地を歩く～」にはあいにくの天候の中、約200名が参加しました。



◀ステージでの催しを楽しむ人びと

上切田小学校の児童による駒踊り。今回で33回目の出演となりました。

毎年好評のクイズ大会 “ニトちゃんとおそぼう”

記念館ではクイズ大会「クイズで探検！ニトちゃんとおそぼう!!」を開催し、参加者681名中279名の方が全問正解し、5月6日から1ヶ月間館内に全問正解者のお名前を掲示しました。また、今年秋には新渡戸稲造博士の五千円札肖像が変わることから、今回は景品として例年の記念館出版物、ニトちゃんキーホルダーに加え、五千円札記念旗3点セット（国旗・市章旗・記念旗）を準備し、抽選で30名の方に贈呈しました。大会終了後の答え合わせにも多くの方が再来館され、解答パネルの前で自分の答えを確認しながら一喜一憂していました。

SAFTA 平成16年文庫展 くらげ企画

クイズで探検！ニトちゃんとおそぼう!!

5月3日~5日
しめ切り5日18時迄

5千円札記念旗 3点セット

ニトちゃん キーホルダー

記念館の本

くわしくは4ページ

◀当日配付したパンフレット



新渡戸 十次郎

新渡戸 稲造

RABラジオ

月曜～金曜 13:15～13:20

十和田市人物伝「新渡戸四代記」放送中!

いま、注目をあつめる 国際人・新渡戸稲造の英語

新渡戸稲造の卓越した英語力に注目し、英語教材として原文で『BUSHIDO』を読み解く書が出版されています。本年4月に出版の『別冊宝島994号 NITOBE 武士道を英語で読む』（宝島社）では、『BUSHIDO』の全文を収録するとともに、各章の中心となる段落をピックアップし、使われている文法の解説など“英文を読み解くヒント”を交えて訳しています。7月に出版の『ビジュアル版 対訳 武士道』（三笠書房）は、全文対訳とともに『BUSHIDO』が書かれた時代背景、「武士道」思想成立の歴史などを“知識ノート”として収録した書籍です。

また、昨年12月8日放映のNHKテレビ番組「英語でしゃべらナイト・スペシャル～サムライが英語と出会った日～」(出演：元国連事務次長・明石康氏 他)でも、英語を駆使して世界に日本を広めた明治時代人の一人として、新渡戸稲造を取り上げましたが、明石氏と番組取材班の共著でこの番組の内容をまとめた書籍『サムライと英語』（角川書店）が今年5月に出版されました。同書で明石氏は、自らの体験をふまえて外交の場で重要となる「言葉の力」について語り、新渡戸稲造の英語力、それを裏打ちする「国際人としての考え方」などを紹介しています。



▲『別冊宝島994号NITOBE 武士道を英語で読む』「BUSHIDO」の英語表現を使って日本について話すフレーズ集「BUSHIDO」を参考に日本を語る」など盛りだくさんの1冊。当館で貸出した写真も多く収録されています。

平成16年度 太素顕彰会各種会員ご芳名 (敬称略)

当会の活動への温かいご支援に感謝いたします

<会員> 稲生川土地改良区 / 十和田商工会議所 / 十和田市農業協同組合 / 十和田市建設業組合 / 十和田市観光協会 / 十和田観光電鉄(株) / 十和田信用金庫 / 鳩正宗(株) / 十和田土地改良区 / 砂土路川土地改良区 / 南部地域農業共済組合 / 十和田市商店街連合会 / 十和田市町内会連合会 / (社)十和田青年会議所

道設備工業(株) / 中野自動車修理工場 / 中野渡久芳 / 中村卓三 / 成田食堂 / 似鳥初彦 / ぬまおかカメラ / 沼口工務店(株) / 馬場青果(株) / 藤井産婦人科医院 / (株)フナバヤシ / (株)米田工務店 / 的場菓子舗 / 丸井重機建設(株) / マルイチ鉄工所 / (有)八重樫石材店 / 安野祐功 / 米澤家具センター / 旅館しもやま (五十音順)

<特別賛助会員> (株)青森銀行十和田支店 / 青森クリーニング / 青森県信用組合十和田支店 / 青森タクシー(株) / 青森電気工業(有) / 青森みちのく警備保障(株) / 赤城表具内装店 / 荒屋義勝 / (有)池田ビジネス / 石川設計(株) / 石川洋品店 / 泉電気工事店(株) / (有)今泉マイクロコンピュータ / (有)岩間印刷所 / 漆館興業(株) / 蛭名電工 / (株)相坂屋 / 大竹菓子舗 / 大友長四郎 / 小笠原国雄商店(有) / オバラ化粧品店 / (財)上十三法人会 / 川村養豚組合 / カワヨグリーン牧場 / 木津 寛 / 小林精肉店 / (株)桜田組 / 桜田酒店 / 桜田造花店(株) / 志賀設計(株) / 成巴(有) / 自転車専科ナカムラ / 下山健逸 / 白鳥時計店 / 白浜水道(株) / 新徳タイヤ商会 / 大七書店 / 竹善不動産 / (株)田中組 / 種市辰雄 / 澄月寺 / 津吉通正 / 東奥アドシステム(株)十和田営業所 / 東奥電気(有) / 東奥日報社十和田支局 / 東京クリーニング / 東陽工業(株) / 十和田ガス(株) / 十和田市壮年懇話会 / 十和田シャッター鋼業所(有) / 十和田商業協同組合 / 十和田信用金庫本店 / 十和田水道設備(株) / 十和田パイオニア(株) / 十和田ビルサービス(株) / (有)直町建設 / 中川原電気商会(株) / 中沢水

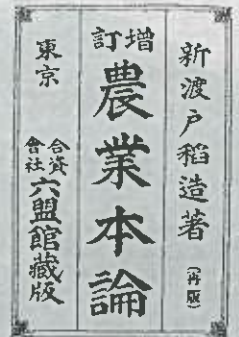
<賛助会員> あけぼの町内会 / あづま町内会 / 一丁目町内会 / 稲穂町内会 / 稲吉町内会 / 牛泊町内会 / 駅通町内会 / 上金崎町内会 / 上平団地町内会 / 上平町内会 / 北会所町内会 / 北平町内会 / 儀兵平町内会 / 公園街六丁目町内会 / 吾郷町内会 / 五丁目町内会 / 三丁目町内会 / 七郷町内会 / 下平町内会 / 杉並町内会 / 瀬戸山町内会 / 第二下平町内会 / 第一瀬戸山町内会 / 太素後援会 / 大門町内会 / ちとせ町内会 / 中振町内会 / 寺向町内会 / 土手山町内会 / 富地町内会 / 並木第二町内会 / 並木南町内会 / 西十一番町町内会 / 西十二番町町内会 / 西十四番町町内会 / 西小稲町内会 / 二丁目町内会 / 橋場町内会 / 八戸街道町内会 / 八甲町内会 / 初田町内会 / 花園町内会 / 東一番町町内会 / 東会所町内会 / 東小稲町内会 / 東桜木町内会 / 東下平町内会 / ひがしの団地町内会 / 東本金崎町内会 / ひばり町内会 / 本瀬戸山町内会 / 前和町内会 / まきば台町内会 / まきば町内会 / 松山町内会 / 南吾郷町内会 / 向切田町内会 / 元町町内会 / 矢神町内会 / 横倉町内会 / 六丁目町内会 / わかば町内会 (五十音順) 《平成16年7月1日現在》

寄贈資料より

新渡戸稲造直筆「農業本論」改訂版の序文



若かりし頃の稲造博士



▲「農業本論 増訂 第四版」(明治41年/六盟館 発行) 中表紙。寄贈資料はこの出版にあたって書かれたもの。

以前、新渡戸稲造筆「Boys, Be ambitious.」の複写を提供くださった鈴木恒雄さん(静岡県袋井市)のご紹介で、西村典夫さん(茨城県西茨城郡友部町)より、新渡戸稲造が著書「農業本論」の増補改訂によせて自ら書いた序文「改訂に就きて」の直筆原稿を寄贈いただきました。

新渡戸稲造の弟子

小出満二氏が残した資料

この序文原稿は、文中に「此改版に就きては、農学士小出満二君を労したること甚だ大なり。特に記して深く同君の労を謝す。」と記されている新渡戸稲造の弟子・小出満二氏が所蔵していたものです。小出氏は九州大学農学部教授、鹿児島高等農林学校(現・鹿児島大学)校長、東京高等農林学校(現・東京農工大学)校長などを歴任し、昭和20年には全国農業会高等農事講習所の初代所長となり、『農学農業教育論』『農村史話』などの著書を残した農業教育者です。全国農業会高等農事講習所は後に鯉淵学園と改称しましたが、西村典夫さんはこの学園での小出氏の愛弟子で、卒業後も学園に残り平成14年に退職するまで植物病理学を研究されました。その関係から西村さんの手許に原稿が残っていたそうです。また、西村さんの一年後輩である鈴木恒雄さんによれば、鯉淵学園には序文の他、本論の原稿もありましたが、昭和53年の火災で手紙など稲造博士と小出氏の交流に関わる資料とともに焼失したそうです。

“専門センスよりコモンセンス”の

精神を受けついだ小出氏

『農業本論』で稲造は古今東西の名著の引用やデータを使って農業の貴さを論証しており、広い知識を基礎に専門を構築すべきとした“専門センスよりコモンセンス”の考えを反映しています。小出氏はこの精神を受け継いだ弟子の一人です。小出氏は大変な蔵書家で、旧蔵書は九州大学農学部、鹿児島大学、東京農工大学、鯉淵学園に残っていますが、実に様々な書籍が含まれています。『農業本論 増訂 第四版』が「明治大正農政経済名著集第七巻」に復刻された折、小出氏の弟子・岩片磯雄九州大学名誉教授が全集の月報に書いた記事によると、岩片氏が小出氏に多分野にわたる蔵書について質問すると「これは多分に新渡戸先生に示唆されたもので、農業経済に志すものは、文学書のごときもとくによく読む必要がある。自分は若いときからそう思っていたが、他の先生はこうしたことを問題にもされなかった。幸い新渡戸先生はこのような考え方に深い理解をもたれていたので師事した」と語ったそうです。

平成15年度 第2回 太素顕彰会理事会・評議員会開催

3月26日、11時から十和田市体育センターにおいて、当館の運営母体である太素顕彰会の平成15年度第2回理事会ならびに評議員会を開きました。太素顕彰会会長・中野渡春雄十和田市長が議長を務め、「平成16年度事業計画及び歳入歳出予算案」について審議が行なわれ、原案通り可決承認されました。

また、会議室内に平成15年度裏打ち資料として「新渡戸稲造直筆『農業本論』改訂序文」を展示し、理事・評議員のみなさんに完成した裏打ち資料を披露しました。

ありがとうございました

- ・西村典夫さん（茨城県友部町）より新渡戸稲造の『農業本論』改訂版序文直筆原稿を寄贈いただきました。（詳細3面）
- ・新島榮子さん（十和田市）より北海道の樹木の化石と黒曜石を寄贈いただきました。

関連情報

◆市民のみなさんの協力で太素塚の植物園化を推進

市民のみなさんから、太素塚に多くの草花が寄贈されています。昨年10月には、沼畑哲夫さんよりチューリップの球根90個をいただきました。



◀今年の春きれいに咲いたチューリップ

◆太素塚・春の清掃奉仕

4月17日 ちいさな親切運動 / 4月22日 十和田稲生ライオンズクラブ / 4月29日・6月6日 本瀬戸山老成会 / 5月7日 大学通り老成会 ありがとうございました

◆平成15年12月1日～平成16年6月30日までの来館小学校
 〈十和田市〉高清水小学校 / 深持小学校 / 北園小学校
 〈五戸町〉南小学校 / 五戸小学校 〈南郷村〉南部小学校

◆RABラジオで「新渡戸四代記」好評放送中

3月29日からRABラジオの十和田市ゆかりの先人たちを描く朗読番組「十和田市人物伝」（月曜～金曜 / 13:15～20放送）で“新渡戸四代記”と題して新渡戸維民から七郎、稲造までの生涯を放送しています。脚本は野崎能成さん（十和田ステージクリエイイト会長）が担当し、当館で監修をしています。

◆札幌市時計台より新渡戸稲造について調査に来館

明治11年（1878）札幌農学校の演舞場として建設され

た札幌市時計台では、同校ゆかりの先人を紹介するコーナーを設けています。今年度は7月1日～9月30日に新渡戸稲造について展示するため、6月10日館長加藤邦雄氏が調査に来館しました。

◆フジテレビの人気番組「トリビアの泉」で新渡戸稲造の五千円札肖像について紹介

面白い雑学を紹介するフジテレビの人気番組「トリビアの泉」（5月19日放送）で、五千円札肖像の基となった写真が養女・ことの結婚式の記念写真で、対照的に夏目漱石の肖像の基の写真が明治天皇の喪に服している写真であることが紹介されました。番組作成にあたっては当館から、五千円札肖像の基となった写真などを貸出しました。

活動報告

◆館長講演会

3月30日 かんぼの宿文化講演会（かんぼの宿十和田）
 5月13日 平成16年度県都市監査委員会定期総会講演（十和田富士屋ホテル）

それぞれ「三本木原開拓と新渡戸三代」のテーマで講演を行ないました。

◆博物館関係会議への出席

6月10日 青森県立郷土館協議会（青森市）
 6月25日 青森県博物館等協議会理事会・総会（青森市）

◆「広報とわだ」へ市内の古木巨木の紹介記事“木々は見ていた”を連載中

十和田市広報紙「広報とわだ」に市内の古木巨木を地域の歴史などととも紹介する連載記事「木々は見ていた—十和田市の古木たち—」を寄稿しています。毎月1日号に掲載されていますので、ぜひご覧下さい。

◆デーリー東北「古里ちよっぴり再発見」に三本木原開拓についての記事を連載

デーリー東北の地域の歴史コーナー「古里ちよっぴり再発見」に三本木原開拓についての記事を、①「新渡戸傳ってどんなひと？」（5月16日掲載）、②「碁盤の目状の町づくり」（23日掲載）③「稲生川は何年で完成？」（30日掲載）の3回連載で寄稿しました。

〈編集後記〉

太素の社の間伐後、根元に充分日がさし込むようになり、近所のボランティアの方がたの協力もあって、緑あふれる森へ変わりつつあります。皆様からいただいた草木の成長も早く、今後ともご協力をお願いします。

発行 太素顕彰会
 十和田市立新渡戸記念館
 ☎034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
 TEL (FAX) 0176-23-4430
 E-mail: nitobemm@hi-net.ne.jp
 http://www.towada.or.jp/nitobe/
 印刷 有限会社 岩間印刷所